

学校教育目標

芽ばえ輝く～未来を拓く5つの芽～

元気な子(たくましきの芽)

よく考える子(学びの芽)

思いやりのある子(優しきの芽)

よく働く子(努力の芽)

きまりを守る子(信頼の芽)

子どもたちが成長するうえで欠かせないもののひとつに「失敗」があります。本来、失敗は恥ずかしいものでも避けるべきものではありません。失敗の中には新しい学びがあり、次の挑戦のヒントが必ず隠れています。しかし、大人が「失敗しないように」と先回りしすぎると、子どもたちは挑戦する機会を失ってしまいます。学校では、失敗した姿よりも「挑戦した姿」を大切にしたいと考えています。うまくいかなかった経験をどう受け止め、そこからどう立ち上がっていかく。その過程を見守り、励まし、支えていくことが大切です。友達と話し合いながら解決策を探したり、何度もやり直して成功の喜びを味わったりする姿には、学ぶ力の本質が込められています。大人が失敗に対して寛容であることで、子どもたちは挑戦への一歩を踏み出しやすくなります。挑戦を歓迎する学校であり続けたいと考えています。

図書指導

12/3

6年生の図書指導の時間では、「翻訳の本」をテーマに、物語がどのように日本語へと姿を変えるのかを学びました。世界中で読まれる名作が、翻訳者の力によって私たちの手元に届いていることを知り、「読む」だけでなく「伝える」ことの大切さにも気づく時間となりました。これからも、広い視野で本と向き合うきっかけにしてほしいと思います。



町たんけん

12/3

2年生は生活科「町たんけん」の学習で、地域で長く親しまれている 人形廻柴田 さんを見学させていただきました。お店に入ると、色とりどりの人形がずらりと並び、子どもたちは「わあ、きれい！」「どうやって作るの？」と、思わず驚きの声があがりました。見学では、ひな人形に使われる材質や作りの工夫、店内に並ぶさまざまな人形の特徴、そしてお仕事に込められた苦労や楽しさについて、丁寧に教えてい

ただきました。子どもたちはメモをとりながら真剣に耳を傾けていました。地域の方から直接お話を聞くことで、町のよさや伝統を支える人々の温かさにふれる、貴重な学びの時間となりました。今回の経験を、これから学習にも生かしていきます。



オーナメント作り 12/3

4年生は図画工作の学習で、水彩絵の具を使ったグラデーション表現に挑戦しました。絵の具の量や水の加え方を工夫し、色が自然に変化していく様子をじっくり確かめながら、自分だけの色の広がりを作り出し、円のオーナメントへと仕上げていきました。円形の中に広がる柔らかな色の変化がとても美しく、作品ごとに個性があふれています。ラミネート加工を施すことで、色の鮮やかさをそのまま保ち、丈夫で長く飾れる作品になりました。



卒業制作に向けて 12/3

6年生が、今年の七宝焼卒業制作に向けて、校内に飾られている歴代の作品を見学しました。昇降口や図書室、校長室に並ぶ先輩たちの力作を興味深く鑑賞していました。3年生から学んできた七宝焼の経験が、いよいよ集大成を迎えます。先輩たちの作品に触ることで、自分たちがどんな思いを込め、どんな作品をつくりたいのかを考えるよい機会となりました。これから始まる下絵づくりや釉薬選びに、期待が高まっています。

